



【感染症だより】

～感染性胃腸炎について～

今年も早 11 月、胃腸炎の季節になりました。胃腸炎といえば、ノロ、ロタ、アデノウイルスなどウイルス性の胃腸炎の集団感染が心配です。急な嘔吐や下痢、腹痛などで発症します。特に注意したいのが脱水症です。軽い症状であれば、あまり心配ありませんが、嘔吐や下痢が頻繁で、水分摂取が出来ない状況が続くと、脱水症を起こします。体重が 10 キロ未満の乳幼児やお年寄りには脱水症になりやすいですので、注意しましょう。脱水症を起こすと、顔色が悪くなり、目がうつろになったり、意識がぼーっとなって、ぐったりします。この様な状況になったら、点滴治療が必要です。そうならないように、経口補水液（アクアライトや OS-1）などで水分と電解質、糖分の補給をしましょう。嫌がっても、頑張っってスプーンやスポイトなどで一口ずつを何度も繰り返して、毎時間 30～50ml 位を目標に飲ませましょう。経口補水液が嫌いなお子様には、みそ汁の上澄みや、コンソメスープでも構いません。水分と、塩分、糖分が摂れるように工夫して飲ませましょう。

ウイルス性胃腸炎は感染力が強く、すぐにうつりますので、おむつを替えたあとや便や吐物処理した後の手洗いをしっかりと行いましょう（石鹸を使用して 30 秒以上）。また、室内の空気の入れ替えもこまめに行いましょう。消毒には、0.02%次亜塩素酸を使用します。消毒剤は、子どもの届かないところに置いておきましょう。

表：10月しみず小児科・内科クリニックで診断された流行性の感染症

	感染症	患者数
1	胃腸炎	54
2	手足口病	13
3	RSウイルス	11
4	肺炎（マイコプラズマ疑い）	10
5	ヘルパンギーナ	8
5	溶連菌	8
7	水ぼうそう	7
8	突発性発疹	2
9	おたふくかぜ	1

文責： 清水マリ子

